

# 疾測量、新システム搭載車を導入

# 走りながら3D地図作成



モバイルマッピングシステムが搭載された車両

助手席にはシステムを操作するためのモニターが付いている  
＝いずれも甲斐市篠原

## 道路の形状変化を把握

疾測量(甲斐市篠原、石井敬康社長)は、高精度GPS(衛星利用測位システム)とレーザーキャナー、カメラを載せ、走行しながら3D地図を作成できる「モバイルマッピングシステム」搭載車両を導入した。地形の測量のスピードが大幅に向上するほか、トンネルや道路の形状の変化を調べ、維持管理に役立てることもできる。「県内での導入は初めて」(同社担当者)といい、テストを経て6月から本格的に活用する。

〈三井将也〉

同社によると、システムは三菱電機製で、車両上部には照射して構造物の形状を調べ、レーザーキャナー2台、3D地図に色情報を加えるためのカメラ3台が設置されて

いる。車の位置を正確に計測するためにGPSも3台搭載している。

道路の測量を行う場合、通常は測量士2人、安全管理のための作業員1人の計3人が最低必要で、1日に測量できるのは150〜200区。システム搭載の車両で行うと道路使用許可を申請する必要がなく、1日に30区ほど測量できるといふ。データ取得の範

囲は車からの距離が最大65区、高さは30区。

また、システムでは公共測量の作業規定で定められる範囲より細かく測量ができるため、公共工事の際も活用できる。道路を通行止めにする必要がなく、最速で時速80区ほどで走行しても測量できることで交通量が多い幹線道路や高速道路での使用にも有効。

工事の際の測量以外でも、土砂崩落で崩れた土砂の量を測ったり、道路やトンネルのひび割れ、ゆがみを確認したりと、さまざまな活用方法が考えられるという。石井社長は「図面を作るだけでなく、幅広く活用することができ。大学なども連携し、防災面などで地域に貢献していきたい」と話している。